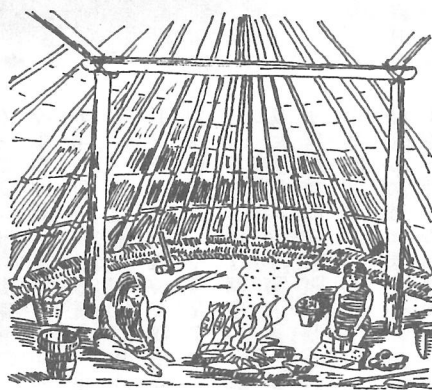


の年前のわが町

東長山野遺跡



私たちの住んでいる横芝町は、東に太平洋、中央に稲穂たなびく平野があり、そして西には小高い丘が横たわり、豊かな自然、海と陸の幸にめぐまれたところでは、数千年前の遠い昔から人々に生活の糧とつるおいを与え、多くのいとなみが生まれてきました。その結果、町内にも古代の人々の足跡が数多く残されてきました。

今号で紹介する遺跡は、長倉字東長山野にあり、ゴルフ場造成の折に出てきた古代の集落跡です。遺跡の名前は「東長山野遺跡」。昨年の12月より調査を始め、遺跡の全容がほぼ明らかになりました。その規模は町内のみでなく、全国的にも有数の遺跡です。

出土した土器 ダンボール箱五百個分

東長山野の遺跡は町西部の丘の上であり、坂田の方から入る谷津の奥まった所にあります。

遺跡のある丘は、少し傾きのある台地となっていて、周囲は谷津が入り、独立した丘のようになっています。面積にして2万平方メートルあるこの大地のほぼ全体にわたって古代の住居跡、土壇（貯蔵穴、落とし穴などの穴の総称）などが数多く発見されました。

これらの時代は、今から約五千年前から四千年前の縄文時代中期のちやうど中頃に当たるものを中心で、ほかには三千八百年前から三千五百年前ぐらいの縄文時代後期初期の住居跡、一千百年ぐらい前の平安時代の住居跡、お墓などもあります。

発見されたこれらの数を合計しますと住居跡六十軒、土壇二百三十個のものがあります。

また、遺物は土器、石器が数多く出て、土器のかけらだけでもダンボール箱にして五百個分にもなり、石器は石斧、石鏃（やじり）を中心に百数十点になります。

そのほか、ペンダントや耳飾りなどの装飾品もあります。これらの遺物は、調査のあと復元などの作業を経て、国民全体の文化遺産として、近い将来、皆さんに見ていただけるようになります。



地中深くに眠っていた土器